

# 東播磨新地域ビジョン骨子（案）

## 第1章 新地域ビジョン策定の経緯

○「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年、改訂から10年 ○地域住民が共有できる2050年の「なりたい姿」を描く ○多様な主体がビジョンを共有し、取組や施策を進める

## 第2章 社会的潮流

	1. 人口減少・超高齢社会	2. 自然の脅威	3. テクノロジーの進化	4. 世界の成長と一体化	5. 経済構造の変容	6. 価値観と行動の変化
現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"><li>人口減少社会に突入</li><li>高齢化が進み超高齢社会になる</li><li>合計特殊出生率は1.4前後で推移</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>風水害の激甚化</li><li>未知の感染症の発生の可能性</li><li>南海トラフ地震発生の可能性</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>情報過多により必要な情報の共有、分析がされず、新たな価値創出が困難</li><li>年齢層等に起因する情報格差の発生</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>インターネットのグローバル化</li><li>世界人口、国際経済の拡大</li><li>日本の製造業の存在感の低下</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>兵庫の産業の付加価値創出の鈍化</li><li>格差の拡大</li><li>社会のゆがみが生じる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>SDGsが世界の共通言語</li><li>持続可能性を重視する価値観やライフスタイルの広がり</li></ul>
2050年に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>高齢労働者の確保が可能</li><li>若者を含めた人口流動性の高まり</li><li>デジタル技術活用による働き方の変化</li><li>人々のつながりの必要性が増大</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>防災整備ハード対策</li><li>人材育成ソフト対策</li><li>自主防災組織の体制整備</li><li>防災減災に注力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>AI、IoTの拡大により遠隔操作の常用</li><li>テクノロジーの進化によるコミュニティの変質</li><li>デジタル革新による生活スタイルの変化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>世界との結びつきが深まる</li><li>外国人県民との交流拡大</li><li>新しいものや考え方を今後も取り入れる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>省人化や自動化の進展</li><li>公益資本主義潮流が生まれる</li><li>共有型経済やワーカーズコープの拡大</li><li>コミュニティ・ビジネス等の取組の促進</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>環境問題について各主体が影響を考え行動</li><li>シェアリング・エコノミーの拡大</li><li>雇用の流動化により、働き方、暮らし方の自由が高まる</li></ul>

## 第3章 東播磨地域の特性

### 1 東播磨地域の人の動き

- 東播磨地域面積は266km<sup>2</sup>で県全体の面積8,400km<sup>2</sup>の約3.17%
- 県内人口約540万人のうち約13%の約71万人が居住
- 昭和から平成初頭にかけて人口は増加傾向が続いていたが、平成12年をピークに減少に転じた
- 65歳以上人口比率は県全体の水準を下回るが、今後は県全体と同様に高齢化が進行する見込みとなっている

### 2 なりたち、自然・文化

- 東播磨地域は兵庫県の臨海部中央に位置し、3市2町で構成
- 東は神戸市、西は姫路市、北は北播磨、南は播磨灘に囲まれる
- 管内東部には東経135度の子午線が通り、中央部には一級河川加古川が流れ、加古川流域には播州平野が広がる
- 東西の交通網が発達した地域で、南部は播磨臨海工業地帯の中央に位置し、一般機械や鉄鋼などの重工業の生産拠点である
- 降雨、降雪が少ない地域であり、大小様々なため池が管内に集中している

### 3 地域資源・歴史遺産

- 瀬戸内海や加古川の舟運の歴史に代表される本地域は、河川、ため池、海岸線など地域全体が豊かな水辺空間に恵まれている。県内最大の流域面積を持つ加古川が地域の中央部を流れ、美しい水辺景観を形成している
- いなみ野台地に分布する加古大池等の日本一のため池群は先人たちの水源確保の歴史を語る文化遺産でもある
- 鶴林寺、明石城跡、石の宝殿、大中遺跡等の文化財、江戸時代に海運の要衝として栄えた高砂の町並みなど歴史的遺産が豊富である

### 4 多彩な産業

- 戦後、臨海部を中心に播磨臨海工業地帯として発展。現在は鉄鋼、化学工業などの基幹産業が集積しており、宇宙航空研究開発機構等の新大型ロケットなどの製品開発・生産が行われている
- 加古川和牛、イチゴ、キャベツ、六条大麦など農産物が生産されている。また、明石ダイや明石タコ、アナゴ等の水揚げ、ノリの養殖など水産業も盛んである
- 高速道路網の充実により物流の効率化、地域産業の活性化を支える

### 5 災害の備え

- 発生頻度を踏まえた津波・高潮対策、総合的な治水対策、土砂災害等の防止等により水害・土砂災害に強い地域づくりを促進する
- 臨海部は台風の際の高潮や高波による浸水被害も受けやすく、近年大型台風により加古川水系、法華山谷川流域で、大規模な浸水被害が生じた
- 山崎断層帯を震源とする地震、南海トラフ地震やそれによって生じる津波、台風や豪雨等による加古川水系、法華山谷川水系などから今後起こりうる浸水被害などの大災害に備え、地域が一体となった住民による自主防災が望まれる

## 第4章 東播磨地域の課題

- 生活（くらし）を取り巻く課題：
  - 災害への備え
  - 安全の確保
  - 移動の不便さ
  - 健康、医療
- 生き方（働き方・学び方）を取り巻く課題：
  - 晩婚化の進展と子育て環境の不安
  - 多様性が進む社会
  - 未来を切り拓く人材の育成
  - 生き方、働き方、学び方の変化
- 地域を取り巻く課題：
  - コミュニティ機能の低下
  - 地域の担い手の減少
  - 素通りされる地域
  - 人口の転出入
- 産業・経済を取り巻く課題：
  - 産業構造の変化に対応できる人材の不足
  - 少ない起業
  - 空き家問題など
  - 交通渋滞
  - 変わらない組織
- 自然・環境を取り巻く課題：
  - 地球規模の環境問題
  - 自然環境の保全
  - 農業の持続化
  - 水辺環境の再生

## 第5章 基本理念

### 「基本理念：水辺・ものづくりのまちでつながりワクワクする未来」

営みの源となる水辺と活力を生み出すものづくりの東播磨で、まちや歴史、自然、産業と、人とのつながりを深め、心躍る新たな未来を創り出す

## 第6章 将来像

### 将来像(めざすべき東播磨の姿)

- 「将来像1：自律・快適 東播磨」** 誰もが自律し、健康で快適な生活を送る
- 「将来像2：安心・活力 東播磨」** 防犯・防災の基盤が整い、力強い産業が活力を生み出す
- 「将来像3：環境・交流 東播磨」** 自然環境の営みを大切にし、地域内外の交流が広がる

## 第7章 将来像の実現に向けた方向性

### 「方向性1：軽やかに動き、いきいきと暮らす」

自動運転、デマンド交通など新たな交通機関の充実やデジタル化の進展により、地域を軽やかに移動する暮らし方、住まい方が広がる。危機に際し柔軟に対応することで、犯罪や災害から暮らしを守る安全安心の基盤が整うとともに、切れ目のない医療の確立とスポーツの活性化により暮らしから健康長寿を可能にする

### 「方向性2：ひとを育み、生きがいが実感できる」

安心して子どもを産み、育てやすい環境を地域ぐるみで整え、自律して挑戦する若者が育つ。多様な生き方を支え合い、ライフステージに応じた生き方、働き方、学び方の選択肢が広がり、自分の大切にしている価値を追求しながら人生100年時代を謳歌する

### 「方向性3：伝統と文化が息づき、交流が広がる」

暮らしの中に息づく祭りなどの伝統文化、豊かな歴史を守り、引き継ぐことで地域の魅力が高まり、暮らしやすい環境や多彩なツーリズムが移住者や二地域居住者、観光客などを国内外から引き寄せる

### 「方向性4：人・もの・情報がつながり、元気にぎわう」

情報や交通のテクノロジーの進化に伴う人・もの・資金・情報の多様なネットワークを基盤に、多くのスタートアップやコミュニティビジネス、シェアリングサービスが生まれ、ものづくりと最先端テクノロジーが融合しグローバルな事業展開を牽引するなど、まちににぎわいと活気があふれる

### 「方向性5：自然を生かし、資源が循環する」

ため池、河川、海浜など地域の水辺と支える里山とが広がり豊かな自然と暮らしが共存し、農水産物の地産地消や再生可能エネルギー、CO<sub>2</sub>フリーとされる水素の域内自給が成立するなど、資源とエネルギーの好循環を生み出している

## 第8章 主な取組

### 「方向性1： 軽やかに動き、いきいきと暮らす」

- 防災・減災の基盤を整える
- 防犯力の向上
- 快適で便利な移動手段の確保
- 自然に健康長寿になれる地域
- スポーツでいきいきと過ごす

### 「方向性2： ひとを育み、生きがいが実感できる」

- 子育てしやすい環境
- 多様な人々が混じり合い支え合う社会
- チャレンジする若者を育む教育
- 広がる生き方・働き方・学び方の選択肢

### 「方向性3： 伝統と文化が息づき、交流が広がる」

- 地域の歴史と伝統への愛着
- ゆるやかにつながる地域
- 新たな担い手の育成
- 地域に根ざした観光資源の活用
- 地域志向への対応

### 「方向性4： 人・もの・情報がつながり、元気にぎわう」

- 産業の稼ぐ力を高める
- デジタル技術の活用
- シェア経済による経済の活性化
- 多様な主体による起業・創業の促進
- 自分たちでつくる、住み続けたいと思えるまち
- 道路ネットワークの整備
- 柔軟に対応できる組織

### 「方向性5： 自然を生かし、資源が循環する」

- エネルギーの域内自給・先進的海洋プラ対策
- 自然環境や景観への配慮
- 農業の持続的発展
- 豊かな水辺を取り戻す取組

## 第9章 未来に向けて